

## 北海道立文書館所蔵樺太庁文書所収の図面類について

正会員○辻原万規彦\*1 同 角 哲\*2

### 9. 建築歴史・意匠-2. 日本近代建築史 建築歴史・意匠

サハリン, 公文書, 豊原, 樺太庁庁舎, 火災

#### 1. はじめに

日本統治期の樺太における建築物に関するこれまでの研究成果は、文献1) などのように、角らによって蓄積されてきた。また、ロシア側では、Samarinによる成果がある<sup>2)</sup>。しかし、同時代の図面の発掘はほとんど進んでいない。筆者らは、既に、北海道立文書館所蔵の樺太庁文書に収められている都市地図について整理した<sup>3)</sup>。今回、同文書に収められている図面類についても整理とデジタル化ができたので、報告する。

北海道立文書館には、2018年2月21日～23日、4月12日と13日、2019年3月15日、5月13日～15日、6月27日、7月25日と26日、7月31日と8月1日に訪問した。サハリンでの現地調査は、2019年8月1日～5日に行った。

なお、本稿では、当時の用語や呼称はそのまま用い、引用文などは原則として現代仮名遣いに改めた。また、紙幅の関係から、戦前期の年号は元号のみを記した。

#### 2. 北海道立文書館所蔵の樺太庁文書所収の図面類

北海道立文書館所蔵の樺太庁文書は、樺太庁東京事務所が保管していた文書である<sup>4)</sup>。終戦後、外務省所管のもとに樺太庁残務整理事務所、次いでアジア局外地整理室に引継がれ、昭和41年に北海道に移管された。大蔵省、内務省、拓務省などの中央の各省や議会関係との対応の過程で作成され、内容は予算折衝や決算報告などが主体である。文献4) では、大正12年から昭和20年の間の320冊の簿冊が現存するとされている<sup>5)</sup>。

後述のように樺太庁本庁庁舎は昭和17年に火災によって全焼した。重要書類は持ち出したとされ、文書課書庫も焼失を免れているが、文書課そのものは焼失しており、焼失した公文書も多いと考えられる。井澗によれば<sup>6)</sup>、サハリン州公文書館でも通信課の文書を除いて樺太庁の公文書の所蔵は多くはなく、北海道立文書館所蔵の樺太庁文書は貴重な史料と考えられる。

同館所蔵の樺太庁文書に収められている図面類を網羅的に確認して、表1を作成した。表中の「A9/15」などの行は、同館が提供する目録の請求番号、資料名、作成者名ならびに年次、を示す。また、□内は筆者による推測や補足であり、内容欄の「」は図面中の書き込みの引用を示す。デジタルカメラで撮影した一部を除いて、ほとんどの図面をスキャンしてデジタル化することができた。ただし、簿冊の持ち出しと解綴が認められなかったため、一部の図面には歪みがある。

表1中の簿冊『A9/18』に収められた幾つかの図面については、井澗が言及している<sup>7)</sup>ものの、その他の図面は、管見の限り、これまで言及されたことのない図面である。中には土木施設の図面も2葉含まれている。なお、簡易な略図などについては掲載していない。

#### 3. 樺太庁本庁庁舎における火災と新庁舎の建設

以下の記述は、北海道立文書館所蔵樺太庁文書の簿冊『A9/111 第二予備金・剰余金関係 昭和十七年度』に綴じ込まれた文書（文書名は「」で示す）による。

昭和17年2月25日に、豊原市に位置した樺太庁本庁庁舎で火災が発生した<sup>8)</sup>。火事は、1635頃に本館階下内務部糧政課室付近から出火し、同日1900頃に鎮火した。本館木造部分（二階建、1,039.63坪）の全部を焼失したが、本館コンクリート造部分（二階建、513.26坪）、別館（木造一階建、本館裏側、277.33坪）ならびに新館（木造二階建、道路向側、1,831.99坪）などは焼失を免れた（文書「樺太廳本館火災概況」より）<sup>9)</sup>。

表1中の図面47（図1）の下方中央に、焼失した本館木造部分が確認できる。この図面中には、床面積が書き込まれている。本館両翼にある（本館の）「別館」192坪と（本館の）「新館」378坪を合わせれば504坪となり、若干の差はあるものの、これらが「本館コンクリート造部分」（二階建、513.26坪）にあたると思われる。

表1 デジタル化できた樺太庁文書所収の図面類一覧（北海道立文書館所蔵）

番号	図面タイトル	縮尺	図面の内容
<b>A 9 /15 歳出予算資料（二） 昭和十年度／樺太庁／1933～34（昭和8～9）年</b>			
1	拓殖学校本館計画図	記載なし	式階平面図/老階平面図、「昭和拾年度実施予定」範囲図示
2	博物館計画図	記載なし	老階平面図/式階平面図/地下室平面図、「昭和拾年度実施予定」範囲図示
3	樺太招魂社御造営之圖		透視圖/配置圖 (1/600) /側面圖 (1/100) /平面圖 (1/100)
<b>A 9 /18 予算資料（一） 昭和十一年度／樺太庁／1935（昭和10）年</b>			
4	豊原警察署廳舎新築平面圖	1/300	地階平面図/老階平面図/貳階平面図/塔屋平面図、略図に近い
5	〔敷香支庁〕支廳舎計画平面圖	1/300	老階平面図/地階平面図/地下室平面図、略図に近い
6	樺太廳巡査駐在所平面圖	記載なし	
7	〔敷香林務署〕野頃林務署新築工事	1/200	
8	樺太廳森林主事駐在所新築工事図	記載なし	
9	中央試験所恵取農事試験支所廳舎其他新築工事	1/200	倉庫/収穫倉/中央試験所農事試験支所廳舎/耕馬舎/水肥舎（平面図、断面図）
10	豊原中学校配置図	1/300	「在来建物」/「増築計劃中」/「本年度増築」区別あり、「昭和拾壹年度増築」範囲図示
11	豊原高等女学校配置	1/600	「昭和拾壹年度新築」範囲図示
12	整理圖 大泊医院レントゲン室増築工事	1/200	大泊医院配置圖 (1/600) 含む
13	樺太廳博物館新築工事 配置圖	1/500	地階平面/式階平面 含む、樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 美馬、写図 秋本、校閲 石井）
14	樺太廳博物館新築工事 立面圖	1/100	正面/側面/背面、樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 貝塚、写図 美馬、校閲 石井）
15	樺太廳博物館新築工事 地階平面圖	1/100	樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 金子、写図 根岸、校閲 石井）
16	樺太廳博物館新築工事 一階平面圖	1/100	樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 金子、写図 美馬、校閲 石井）
17	樺太廳博物館新築工事 二階平面圖	1/100	樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 金子、写図 美馬、校閲 石井）
18	樺太廳博物館新築工事 塔屋平面圖及全屋根伏圖	1/100	樺太庁土木課（設計 貝塚、製図 菅原、写図 美馬、校閲 石井）
19	官舎新営計画図	1/200	甲官舎（部長官舎/課長官舎/農事試験支所長官舎）/乙官舎（四五坪/四一坪/敷香林務署野頃出張所長官舎）
20	材料試験室新築計畫圖	1/200	
21	茅蘭泊淡水魚孵化場配置圖	1/1,000	
22	樺太廳々舎階下平面圖	1/300	「昭和拾年度修繕」/「昭和拾壹年度修繕」範囲図示
23	樺太廳々舎階上平面圖	1/300	「昭和拾年度修繕」/「昭和拾壹年度修繕」範囲図示
24	樺太廳眞岡醫院病室増築其他工事整理圖	1/200	「昭和拾年度修繕」/「昭和拾壹年度修繕」範囲図示
25	泊居警察署改築計画	1/100	老階平面図/式階平面図、略図に近い
26	真岡煙草販売所新築計畫圖	1/200	地階平面図/老階平面図/貳階平面図/塔屋平面図、略図に近い
<b>A 9 /21 追加予算関係 昭和十年度／樺太庁東京出張所／1934～35（昭和9～10）年</b>			
27	大泊港駅本屋災害之図	1/200	原因「大泊連絡待合之舎 八枚ノ一」、正面/背面/階上平面/階下平面/塔屋平面/左側面/右側面/基礎平面、「薄赤ハ焼失焼損ケ処ヲ示ス」/「濃赤ハ焼失崩壊ケ処ヲ示ス」範囲図示、※1
28	大泊連絡待合之舎 八枚ノ一	1/200	図面そのものは※1と同じ
29	大泊港平面図	記載なし	※2
30	〔大泊港平面図〕	記載なし	図面そのものは※2と同じ
31	大泊港驛第一待合所本屋災害復旧之圖	1/100	正面/階上平面/三階平面、放熱器などの書き込みあり、※3
32	大泊港驛第一待合所本屋災害復旧之圖	1/100	図面そのものは※3と同じ（放熱器などの書き込みなし）
<b>A 9 /37 予算資料 殖産部、中試 昭和十四年度／樺太庁／1937～38（昭和12～13）年</b>			
33	農家住宅 設計圖	1/100	4種の住宅の立面/平面/断面（2種）、パースあり
<b>A 9 /52 歳出予算資料〔一〕 昭和十五年度／樺太庁／1938～39（昭和13～14）年</b>			
34	大泊港埠頭陸上設備設計圖		横断面圖 (1/200) /平面圖 (1/1000)、土木施設の図面
35	農村部落集會場計畫圖	記載なし	正面図/側面図/平面図/小屋裏
36	農家指定住宅設計圖	記載なし	正面図/平面図
37	開拓者共同宿泊所計畫圖	1/100	正面図/平面図
<b>A 9 /55 第二予備金関係 昭和十四年五月／樺太庁／1939（昭和14）年</b>			
38	大泊港駅配置圖	1/1000	「道床バラスト沈下」/「建物被害」範囲図示、土木施設の図面
<b>A 9 /57 予算資料 交通部 昭和十四年度／樺太庁／1937～38（昭和12～13）年</b>			
39	〔豊原飛行場配置圖〕	記載なし	
<b>A 9 /80 追加予算〔昭和十六・十七年度〕／樺太庁／1941（昭和16）年</b>			
40	樺太廳豊美園計畫圖	1/600	貳階平面図/老階平面図、「現在建物」/「昭和拾七年度実施建物」区別あり
<b>A 9 /97 予算資料 昭和十七年度／樺太庁／1941（昭和16）年</b>			
41	樺太糧穀會社倉庫新築設計圖		正面/側面/小屋伏/平面（以上、1/100）/横断詳細 (1/20)
42	〔樺太糧穀會社倉庫新築設計圖〕	記載なし	〔正面〕/〔側面〕/〔小屋伏〕/〔平面〕
<b>A 9 /111 第二予備金・剰余金関係 昭和十七年度／樺太庁／1942（昭和17）年</b>			
43	樺太廳々舎配置圖	1/600	「焼失建物」/「移轉建物」/「廢毀建物」区別あり
44	〔樺太廳々舎 貳階平面 老階平面 地階平面〕	記載なし	貳階平面/老階平面/地階平面、「第一回分」/「第二回分」区別あり
45	樺太廳々舎階上平面圖	1/200	略図に近い
46	樺太廳々舎階下平面圖	1/200	略図に近い
47	樺太廳々舎配置畧圖	記載なし	「焼失セル建物」/「取除キヲ要スル建物」/「残スベキ建物」区別あり
48	半田警部補派出所建物配置圖	1/300	「焼失区域」範囲図示
49	樺太廳師範學校女子寄宿舎配置圖	記載なし	北寮階上図/北寮階下図/階下図/南寮階下図/南寮階上図、「赤輪郭ハ焼失部分」範囲図示、※4
50	師範學校女子寄宿舎配置圖	1/200	老階平面図/貳階平面図、「焼失部分」/「昭和十四年度施行」/「昭和十五年度施行」の区別あり
51	師範學校計畫圖	1/600	女子寄宿舎老階平面/女子寄宿舎貳階平面/男子寄宿舎老階平面/男子寄宿舎貳階平面/師範學校老階平面/師範學校貳階平面/附属国民學校老階平面/附属国民學校貳階平面、「焼失」/「昭和十七年度」/「昭和十八年度」区別あり、※5
<b>A 9 /114 第二予備金・剰余金支出関係 昭和十七年度／樺太庁／1942（昭和17）年</b>			
52	師範學校計畫圖	1/600	※5と同じ
53	樺太廳師範學校女子寄宿舎配置圖	記載なし	※4とほぼ同じ
<b>A 9 /132 編成関係 昭和十八年度／樺太庁／1942～43（昭和17～18）年</b>			
54	樺太廳醫學專門學校新築計畫圖	1/600	校舎貳階平面/校舎老階平面
55	〔寄宿舎平面計畫圖〕	記載なし	老階平面（2種）/老階平面（2種）
56	樺太廳醫學專門學校計畫圖	1/600	老階平面図
57	樺太廳醫學專門學校計畫圖	1/600	貳階平面図

一方、「本館裏側」の「別館」は、延べ床面積には差があるが、図面中の上方左側に描き込まれた、ほぼ同規模の「別館」(345.25坪)と考えられる。さらに、「道路向側」の「新館」(1,831.99坪)は、こちらも延べ床面積には差があるが、図面中の下方右側の「新廳舎」(1,087坪)と「仮廳舎」(488坪)の全体(計1,575坪)と考えられる。これまで知られていなかったが、昭和17年当時の樺太庁本庁庁舎は、本館(二階建。木造部分、RC造の別館、RC造の新館<sup>10)</sup>を含む。)のほか、別館(木造一階建)と新館(木造二階建)からなっていたことがわかる<sup>11)</sup>。さらに、簿冊『A9/18 予算資料(一) 昭和十一年度』に綴じ込まれた文書「樺太廳々舎新營豫算要求書」中の「現在樺太廳々舎延坪数」表には、「本館 1,604.83坪/別館 241.66坪」と記されていることから、木造二階建の新館は昭和11年度以降16年度までの間に建設されたと考えられる。

これまで樺太庁本庁庁舎の建設年代は推定に過ぎなかった<sup>7)</sup>。しかし、文書「被害調書」中の「建物及工作物被害調書」からは、前述の本館の木造部分が「明治四十年四月新築」であることがわかった。なお、「第一號物品倉庫」(図1中の本館木造部分の左下)、「第二號物品倉庫」(図1中の本館木造部分の左上に2棟並ぶ倉庫のどちらか)ならびに「電話交換室及渡廊下」(図1中の本館木造部分の右上)も同時に新築された。

焼失した本館の木造部分の代替として設計が進んだと考えられる新庁舎の位置は図2(表1中の図面43)中に示され、平面図が図3(表1中の図面44)であると考えられる。文書「樺太廳々舎新築設計概要」には、新庁舎の概要について以下のように記載されている。

#### 一. 構造

1. 骨格及床板ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ構築シ壁体ヲ煉瓦積トセル構造トス
  2. 地上二階建トシ總体地下室付トス
  3. 外部總体タイル貼付ケ内部天井纖維板張、壁漆喰塗、腰廻り人造石塗、木造腰羽目、モルタル塗等適宜ニ配置使用ス
  4. 窓二重トシ各階二個所宛ノ防火扉ヲ設備ス
- 二. 建築面積 地上事務室1,958坪地下室942坪(倉庫食堂等)トス

図2中に示された新庁舎が建てられた位置には、現在、軍関連施設が入った建物が建っている。そのため、敷地内への立ち入りはできなかったが、敷地外からの観察では、図3で「第二回分」とされる東翼部分と中央部分にあたる棟のみが確認でき、西翼部分は確認で

きなかった。東隣に建つ現在のサハリン州政府の建物は両翼が揃っているが、サハリン州でも重要とされる軍事施設であるにもかかわらず両翼が揃っていないのは不自然とも言える。また、Google Maps, Yandex Maps, 2GISで提供される空中写真と地図(いずれも2019年12月閲覧)上の建物概形と、図3の建物概形はよく一致しており、現存する建物は樺太庁の新庁舎を増築した建物である可能性も大きい。そうであるとする、現在の西翼の敷地は、東翼と中央の敷地より1段下がっていることや、図2中のように、計画では、東翼側に比べて西翼側の方が「移転建物」が多かったことから、計画とは逆に東翼側を先に建設したと考えられる。

なお、新庁舎の設計者は、文献1)で指摘されるように、技師の貝塚良雄である。また、文書「營繕課定員」からは、担当者は、技手の渡邊雅男と雇員の黒田健太郎ほか1名(氏名は不明)であったと考えられる。

#### 4. まとめ

本稿では、北海道立文書館所蔵の樺太庁文書に収められている図面類について報告した。特に、従来ほとんど情報のなかった樺太庁本庁庁舎について、その全容などの新たな事実を指摘することができた。

**謝辞** 本稿は、2019年度公益財団法人前田記念工学振興財団研究助成、JSPS 科研費 17K06754 ならびに 15H04109 の助成を受けた成果の一部である。図面の閲覧とデジタル化では、北海道立文書館、株式会社サンコーにお世話になった。記して謝意を表す。

#### 注・参考文献・引用文献

- 1) 角幸博：南サハリンにおける日本期の建築活動に関する研究，平成16～18年度科学研究費補助金 基盤(B)研究成果報告書，2007.4
- 2) Samarin, I. A. (Самарин И.А.): Памятники истории и культуры периода губернаторства Карафуто (1905–1945 гг.), Южно-Сахалинск, 2015
- 3) 辻原，角：大縮尺の都市地図を用いた戦前期樺太における真岡の変容の検討，建築学会九州支部研究報告，第57号，pp. 605–608, 2019.3.
- 4) 辻原，角：戦前期樺太における大縮尺の都市地図，戦前期樺太火災保険特殊地図集成 別冊解題，柏書房，pp. 3–23, 2018.7.
- 5) 三上昭美ほか編：日本古文書学講座 第9巻 近代編 I，雄山閣出版，1979.12
- 6) 北海道立文書館提供の目録には318冊の簿冊が掲載されている。
- 7) 井潤裕：サハリン州公文書館の日本語文書，アジア経済，第44巻，第7号，pp. 59–75, 2003.7
- 8) 井潤裕：日本期の南サハリンにおける建設活動に関する研究，北海道大学博士学位論文，2000.2
- 9) 国立国会図書館や北海道大学附属図書館所蔵の樺太日日新聞は昭和17年1月までしか確認されておらず、樺太庁本庁庁舎の火災についての詳細を新聞記事から把握することはできない。
- 10) 火災後の様子を示す写真7葉も確認できた(うち2葉は同じ構図)。
- 11) 文献1)で「旧樺太庁会議室」とされている昭和9年に建設されたこの建物を実測調査して作成した図面が文献中に示されている。
- 12) 紙幅の関係から図面を示すことはできないが、表1中の図面45と46には昭和16年度当時と推測される各室の用途が書き込まれている。図1(表1中の図面47)の用途と違う個所もあり、今後の検討課題である。なお、表1中の図面22と23には各室の用途はほとんど書き込まれておらず、これまで用途は不明であった。

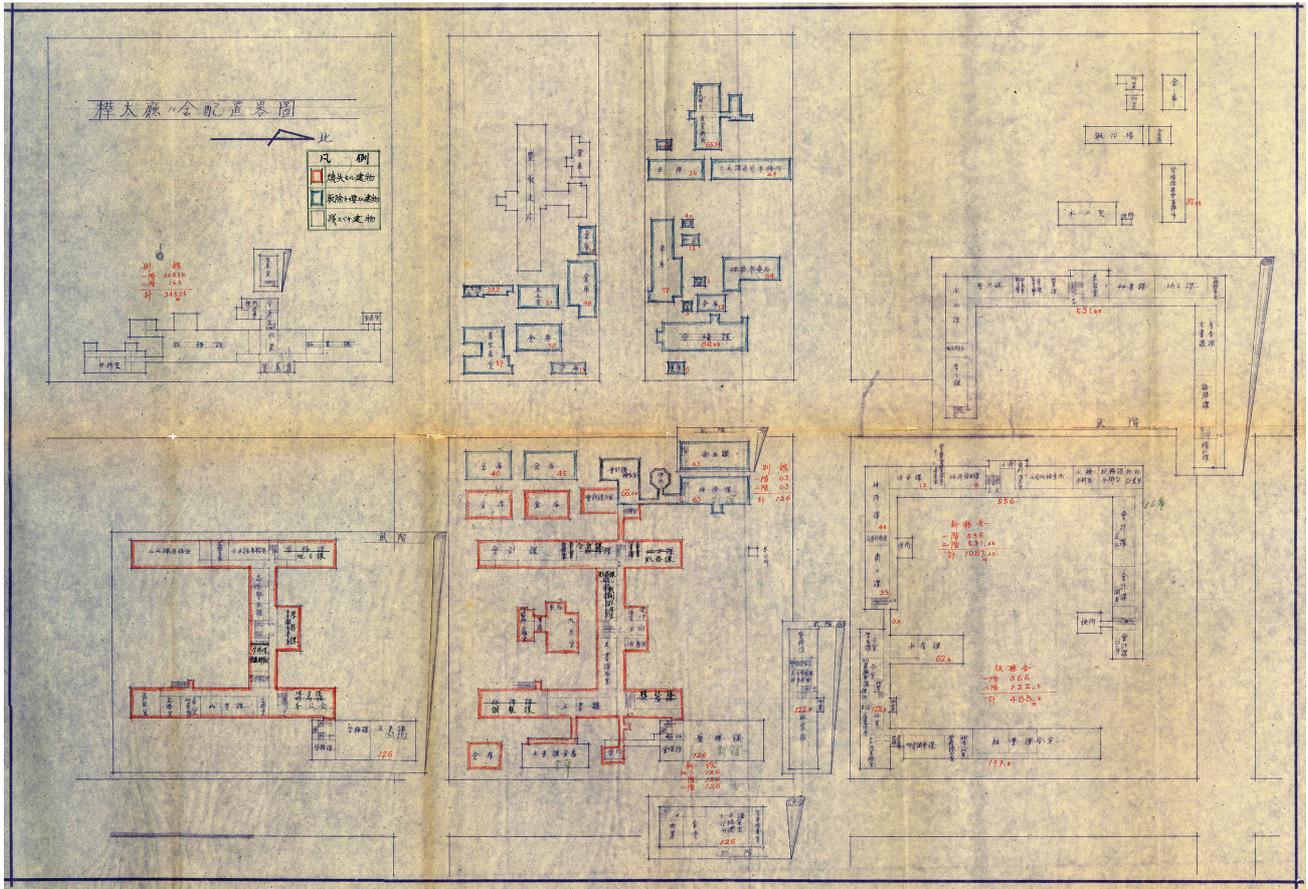


図1 樺太廳々舎配置畧圖 (表1中の図面47, 北海道立文書館所蔵)

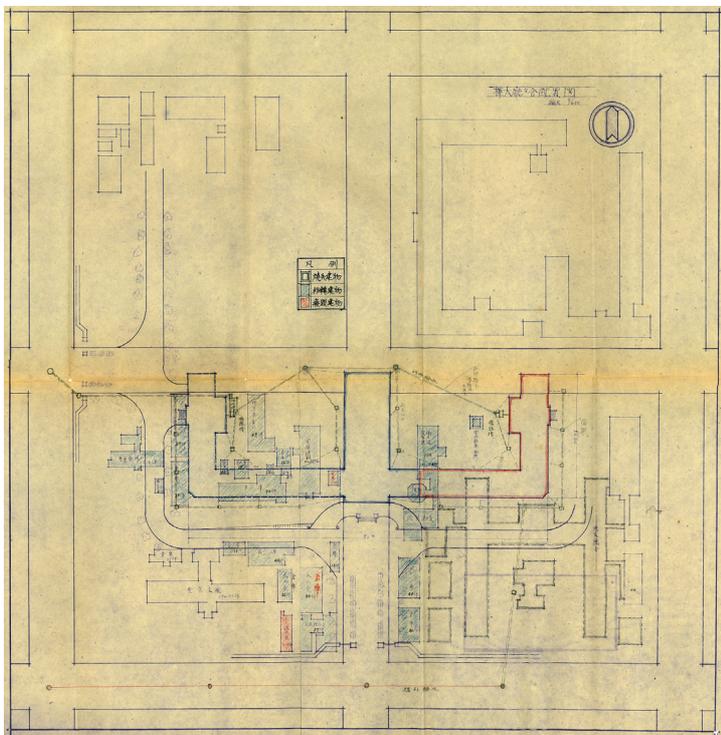


図2 樺太廳々舎配置圖 (表1中の図面43, 北海道立文書館所蔵)

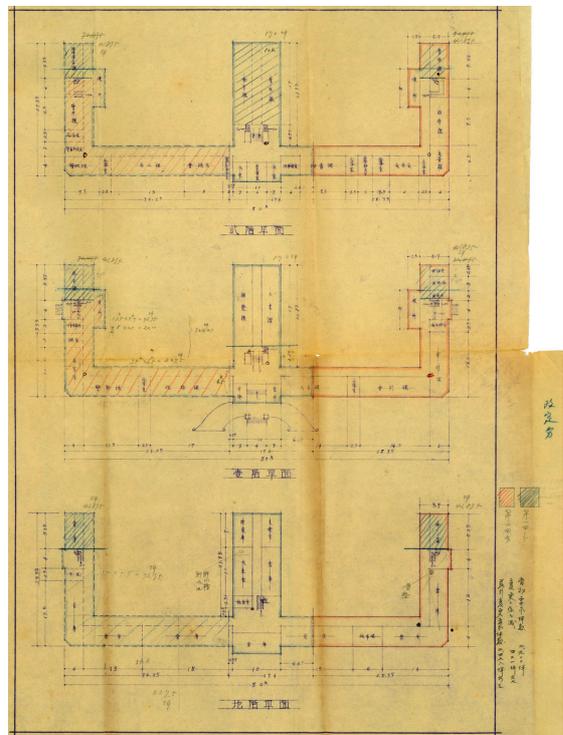


図3 樺太廳々舎 貳階平面 壹階平面 地階平面 (表1中の図面44, 北海道立文書館所蔵)

\*1: 熊本県立大学環境共生学部 教授・博士 (工学)

Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.

\*2: 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 准教授・博士 (工学)

Assoc. Prof., Nagoya City University, Dr. Eng.